

地方自民の反乱

ウオッチ
安保国会

離党表明、街頭へ 反対の会代表に

参院で審議中の安全保障関連法案をめぐる、永田町から遠く離れた地方で、市議が自民離党を表明して法案に反対したり、自民県議が法案反対の会の呼びかけ人になったりする動きが出ている。「自分たちの考えは変わっていないが、党が変わってしまった」――。彼らに共通するのは、そんな思いだ。

愛知・あま

「私はバリバリの自民党だった。しかし、安倍政権は安保法案を数の力で強引に通そうとしている。非常に危険だ」。愛知県あま市の名鉄木田駅前で4日夕、八島進市議(66)が訴えた。自民離党を表明し、法案反対の活動で街頭に立つ。この日も共産市議らと並び、マイクを握った。

広島・庄原

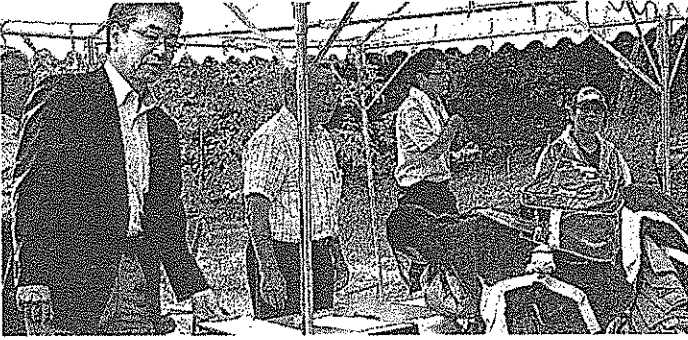
広島県庄原市では自民の小林秀矩県議(68)が代表をつとめる超党派の「ストッブ・ザ・安保法制 庄原市民の会」が7月末に立ち上がった。小林さんは「今の政府が右に寄りすぎただけ。私の立ち位置は何も変わっていない」と話し、法案反対を理由に離党するつもりはないという。

新潟・阿賀野

新潟県阿賀野市では「九条を守る阿賀野の会」に今春、自民党員として合併前の笹神村で議員を3期務めた田村廣治さん(80)が加わった。平和運動を続ける人や労組関係者らに交ざり、呼びかけ人に名を連ねる。中学を卒業し、農家で丁稚奉公した後、材木屋に勤めた。20代で自民の国政選

挙を手伝うようになった。1980年に村議になり、92年にやめるまで党員だった。

だが、昨年の集団的自衛権行使容認の閣議決定の頃から疑問を抱くようになった。デモ報道を見て「昔の自民党なら、もっと時間をかけて理解を得ようとしたはずだ」との思いが強まる。自民の後輩がどう思っているのかも分からないが、「この年になると怖いものはない」と笑う。(中野龍三、成田康広、伊木縁)



安保法案の廃案を求める署名を呼びかける広島県議の小林秀矩さん(左) 8月22日、広島県庄原市

議員歴12年。地元では保守系も自民の公認を受けなかったが、「自分の考えに近い」と入党していた。2009年衆院選で自民が下野し、地元の海部俊樹元首相が落選しても党費を払い、応援し続けた。だが、安倍政権の安保法案を巡る手法に納得できなくなった。「憲法をないがしろにし、国民を置き去りにしている」

8月30日に全国連携の抗議集会があま市でも開かれると初めて参加。9月4日には年4千円の党費納入をやめると党県連の関係者に伝えた。「歴史を見れば、日本もドイツも独裁から戦

争へ突き進んだ。今の自民党にはおごりがある。安倍首相の言いなりだ」

市民から法案廃案を求める署名を集めると、約1カ月で約1万3千筆になり、1日に衛藤晟一首相補佐官に提出した。「思った以上に手応えがある。特に女性の関心が高い」

9/8
TAR